

冬磯の味覚「ハバノリ」(セイヨウハバノリの養殖方法について)

環境増養殖担当 広沢 晃

Key word ;カヤモノリ, セイヨウハバノリ, ガネガス, カイノリ, 養殖

はじめに

県南の海部郡では、冬季の 1 月下旬頃になると、冬の風物詩として岩に生えたカヤモノリの摘み取りが始まります。摘採されたカヤモノリは天日干しされて地元のスーパーや鮮魚店、道の駅などで売り出されます。火で炙って手で揉んでご飯にふりかけて食べます。日和佐では「ガネガス」、牟岐では「カイノリ」、海南町では「麦ワラ」と呼ばれて親しまれています。一方、ハバノリはカヤモノリと同じカヤモノリ目に属し、カヤモノリの代替品として生産されます。当地のハバノリはセイヨウハバノリと呼ばれる種類です。なお、当地ではハバノリはカヤモノリの代替品ですが、全国的に見るとハバノリが主流で、「はばをきかす」ということで正月の縁起物として高値で取引されているようです。県南でのカヤモノリやハバノリの生産は天然採取に依存しています。このため、年変動や生産量が制限されています。そこで、ここではセイヨウハバノリの養殖方法について紹介したいと思います。



写真 1 カヤモノリ(ガネガス)



写真 2 ハバノリ(ハバ)

セイヨウハバノリの養殖方法

ハバノリ養殖の作業工程は次のようになります。

1) 種の培養(9~11 月)

ハバノリの養殖は種を採ることから始めます。冬場の 2~3 月頃に潮干帯の岩盤に生育する天然のセイヨウハバノリを採取します。持ち帰った葉体を滅菌海水で綺麗に洗って、シャーレに葉片を入れて、蛍光灯をあてて、配偶子の放出を待ちます。葉が成熟していれば直ぐに無数の配偶子を放出します。成熟していない場合は、数日間シャーレに入れたまま放置すると成熟が進み配偶子が放出されます。この配偶子をピペットで採取し、新しいシャーレに数滴入れて培養します。この時、培養水には滅菌海水に栄養剤を適量添加します。蛍光灯を当てて、2,000~5,000lux 程度の光を 12~14 時間照射します。水温は約 20℃に保ちます。



写真3 岩盤上に生育するセイヨウハバノリ

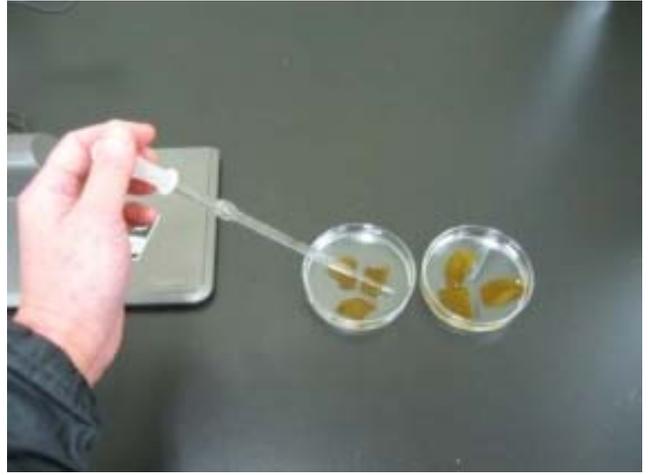


写真4 配偶子の採取

2) 採苗と育苗(種網生産)(10~11月)

採苗に用いる種は、シャーレで培養した種を3%程度の硝子瓶に入れて1ヶ月程度拡大培養して適当量に増やします。培養条件はシャーレでの培養と同じですが、エアレーションを強めに与えます。種網には、海苔網を半分の長さの約10mに切断して採苗用の網として用います。培養した配偶子を家庭用のミキサーで細断して、海水と海苔網を入れたタンクに投入します。採苗網の枚数は100%タンクで5~6枚程度可能です。採苗タンクは屋外の比較の日当たりの良い場所に設置します。このとき、透明なビニールシートをかぶせて海水が蒸発しないようにして、強めのエアレーションをおこないます。また、培養水には栄養剤を適当量入れます。1~2ヶ月間、上記の状態ですべて培養します。自然光が網全体にいきわたるように、1週間間隔で網を反転して、種が網全体に均一に付いて生育するようにします。



写真5 配偶子の培養



写真6 海苔網への採苗

3) 種網の張り込み(沖出し)(12~1月)

種網の張り込み方法は、砂質の海底に鉄筋棒で固定する方法と、海面の竹筏に張り込む方法があります。海底張りは資材が鉄筋棒だけで非常に安価ですが、網を張るのに適当な砂浜と潜水作業が必要です。

4) ハバノリの生育と収穫(1~2月)

2004年の養殖試験では、10月下旬に採苗を開始し、約2ヶ月後の12月下旬に沖出ししました。採苗・育苗期間中(パンライト水槽)の平均水温は15.8℃(25.2~3.5℃)でした。1月下旬(養殖期間約30日)の養殖ハバノリの平均藻体長は、海底張りで17.7cm(SD9.9)、竹筏で11.5cm(SD3.7)でした。

また、収量は、乾燥重量で海底張り0.13g/cm、竹筏0.08g/cmで、海苔網(20m)に換算するとそれぞれ5,100g(乾)/網、3,300g(乾)/網のハバノリが収穫できる計算となりました。

2005年の養殖試験では、11月中旬に採苗を開始し、12月下旬に沖出ししました。採苗期間中の平均水温は14.7℃(22.5~7.5℃)でした。2月上旬(養殖期間約50日)の養殖ハバノリの平均藻体長は、20.0cm(SD8.5)でした。また、収量は、乾燥重量で0.19g/cmで、海苔網(20m)に換算すると7,500g(乾)/網となりました。なお、養殖期間中(海底)の平均水温は14.4℃(17.7~11.4℃)でした。



写真7 海底張り(収穫作業)



写真8 竹筏養殖



写真9 天日干し

最後に

セイヨウハバノリは日本各地でみられ、本県でも播磨灘から海部郡沿岸の潮間帯に広く分布しています。どこにでもみられるごく普通の海藻であることから、生育環境の制限が少ないため養殖はどこでも比較的簡単にできると考えられます。しかし、ハバノリを食すのは県下では海部郡など限られた地域で、流通量が少ない商材です。販売努力が必要とされますが、養殖に興味がある方は水研にご連絡ください。